



分水作業の実技指導を受ける訓練生たち＝8日午前、宇都宮市

宇都宮市管工事業協同組合

分水作業、初の実技指導

校に
専門
訓練生に

宇都宮市管工事業協同組合は8日、同市平出工業団地の宇都宮市管工事業会館で、県央産業技術専門学校建築設備科の訓練生に対し、水道管から各住宅などに通水する分水作業の実技指導を初めて実施した。訓練生の

就業意欲の向上や建築設備業に携わる人材の育成が目的。専門校の設備では分水作業の実技は難しいことから、同校が県管工事業協同組合連合会に指導を依頼した。

実技指導には、建築設備科の1、2年生の計20人が参加した。「給水装置や分水栓の仕組み」を受講した後、敷地内に組み立てられた口径100ミリの铸铁管の練習用配管で企業の実践技能者から実技指導を受けた。

訓練生は2人一組になって配水管から各住宅などに給水管を分岐する給水器具「分水栓」を取り付ける作業に取り組んだ。配水管に穴をあける穿孔や通水などの作業も体験した。

同科1年の中瀬詢さん(19)は「より実践的な作業を体験することができて勉強になった。実技指導を受けたことで働くイメージがより具体的になった」と話した。(内藤大地)